

NGO-労働組合国際協働フォーラム 2021/2022 年度活動報告 (2021年9月1日～2022年8月31日)

「持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals(SDGs)」の実現に向け、NGOと労働組合が協働して社会課題の解決に取り組む場である「NGO-労働組合国際協働フォーラム」の一年間の活動を報告する。

引き続き、「児童労働グループ【ゴール 8】」、「HIV/AIDS 等感染症グループ【ゴール 3,8,10】」、「母子保健グループ【ゴール 3,5】」の課題別グループの活動に加え、長引く新型コロナウイルス感染症流行下で最も影響を受ける立場の方々が抱える課題などについて本フォーラムの問題提起する動画を当フォーラムで制作し、広く発信した。

I. フォーラム全体の活動

1. 活動体制

1) 連絡調整会議

- －機能: 暫定版活動計画・予算の協議と承認、フォーラム活動に関する情報交換、報告
- －参加者: (必須) グループ代表 (原則 NGO, 労組各 1 名)、(任意) 希望するメンバー
- －開催実績:

第 1 回 2021 年 10 月 1 日

主な議題: JANIC からの報告/事業計画・予算の仮承認/広報タスクの進捗報告/事業報告・決算の準備状況の報告/その他(労組側協働事務局人事異動)

第 2 回 2022 年 4 月 21 日

主な議題: 報告: 課題別グループ、広報タスクの活動報告/報告: JANIC 経理問題に関する進捗状況/審議: キャンペーン申請 (エイズ等感染症グループからの申請) /協議: フォーラム勉強会/その他 (メーデー、NGO データブック刊行等)

第 3 回 2022 年 7 月 20 日

主な議題: 報告: 課題別グループ、広報タスクの活動報告/報告: フォーラム勉強会/協議: フォーラム会計改善取組について/協議: 本年度報告・決算、次年度計画方針、スケジュールについて/その他

2) 総会

- －機能: 活動計画、予算、活動報告・決算の承認。フォーラム活動に関する全般的な意見交換の場とする。
- －参加者: 全メンバー
- －開催実績: 2021 年 11 月 17 日

主な議題: 2020//21 期の活動報告・決算承認 (含む会計監査報告) /2021/22 期の活動計画・予算書承認/協働事務局 JANIC での経理問題を踏まえた本フォーラムの対応/広報タスクによる動画制作、キャンペーン/その他 (スケジュール確認等)

3-1) 活動種別: グループ活動

次の 3 つの課題別グループで活動した(新規グループ形成なし)。

- ・ 児童労働グループ【ゴール 8】
- ・ HIV/AIDS 等感染症グループ【ゴール 3,8,10】
- ・ 母子保健グループ【ゴール 3,5】

3-2) 活動種別: タスクチーム

本フォーラムの主軸である課題別グループ活動の発展支援と、SDGs 達成に向けて協働することに関心のある NGO と労働組合関係者に対する本フォーラムの活動発信を行った。活動内容の詳細は II タスクチーム活動にて報告する。

4) 会員・会費

会員:NGOメンバー 14、労組メンバー14

会費:計 28 メンバーから納付があった

5) 会計監査

ー担当メンバー

労組)国際建設林業労働組合連盟 BWI 日本加盟組合協議会(JAC)

NGO)(一社)SDGs 市民社会ネットワーク(SDGs ジャパン)

ー通常会計監査に加え、以下3. 事務局で報告する本フォーラムの会計改善取組について検討を行った。

ー会合実績:

2022年4月15日

(予定)2022年10月21日 会計監査の実施(2021-22期決算案について)

2. 共通活動計画

1) 広報活動

メンバーによる広報タスクチームを形成し、企画、制作する。実際の広報活動自体はメンバー全体で協力して行った。

協働事務局は、本フォーラム概要や各グループ活動情報を発信するための YouTube チャンネル、Facebook 等の公式媒体の管理と、フォーラムメーリングリストの管理・発信を行った。

2) フォーラム勉強会

今期は初の取組としてメンバーに対し企画を募ったところ、課題別グループから提案があり3件実施した。

制度概要:

目的) 新型コロナはじめ環境の変化が激しい中、フォーラムが取り組む社会課題に関する情報のアップデートのために、フォーラムメンバーとして参加する担当者以外のメンバー団体スタッフ・関係者向けの企画を実施する。
対象) フォーラムメンバー団体関係者向け(内容によっては、一般参加募集も可能とする)
形式) 勉強会として開催。テーマによって講演やグループワーク等の工夫をする。
回数・開催時期) 年4回(一回2時間程度。無料) 2021年11月、2022年2月・5月・8月
方法) メンバーからテーマ募集。テーマ担当メンバーが企画、協働事務局がロジ支援。
費用) 参加は無料。登壇メンバーには謝礼支払い。
録画) 講演部分は録画、フォーラム広報媒体に掲載・事後活用

実績一覧:

開催回	開催日時	提案メンバー	タイトル
1	2022年6月8日	児童労働グループ	日本の児童労働の現状と課題
2	2022年7月12日	HIVエイズ等感染症グループ	新型コロナで大きく変わる「国際保健」のルールと仕組み 「日本とは関係ない」では済まない「パンデミック対策」の現実とは?
3	2022年7月26日	母子保健グループ	タリバン政権下のアフガニスタンの母子への支援活動について

3) キャンペーン支援

制度概要:

組合員と一般市民が共に参加できるメンバーが関わっているキャンペーンを本フォーラムが積極的に支援することで、SDGsの達成に寄与する。支援是非は連絡調整会議が決定し、次の機能は協働事務局が担当する。
1 キャンペーン支援制度の告知。
2 支援するキャンペーンについての書類審査、連絡調整会議への提案。(申請団体と共に)

実績一覧:

以下の申請が第2回連絡調整会議に提出され承認された。具体的な提言テーマと内容、展開タイミングについては、23年春に開催されるG7サミットなども視野にいれて再検討されることとなった。

タイトル:新型コロナを教訓に、「すべての人に健康を」！＝国際連帯税の導入などで、パンデミックへの備えの確立と、SDGsゴール3の達成をめざそう！＝

申請者:NGO・労働組合国際協働フォーラム エイズ等感染症グループ

3. 事務局体制

1) 実績

労働組合側事務局:日本労働組合総連合会(連合)、

NGO側事務局:(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)

2) NGO側協働事務局 JANIC の経理問題について

2021年10月1日連絡調整会議および11月17日の総会の場で、JANICより2022年夏に公表した「JANIC横領・経理不正問題に関する内部調査報告書」における本フォーラムに係る問題について説明および今後の対応について説明があった。

フォーラムとしては協働事務局を預かる JANIC としての改善策の着実な実施と合わせ、不適切な経理処理を可能とした本フォーラムの会計の在り方について改善を図るための議論を行うことを決定した。

3) 会計改善取組について

上述2)を踏まえ、今期の会計監査担当メンバー、協働事務局に外部専門家(税理士)も含めて資金管理・会計の強化にむけ検討した。

検討結果を連絡調整会議に報告し了承を得たうえで、次期計画に年間を通じた外部専門家の配置や会計処理文書類の改善取組を進めた。

II. タスクチーム活動

広報タスクチーム

1) 基本目標と活動

- ・長期化する新型コロナウイルス感染症流行の影響を最も受けている人びと・社会の現状に対する本フォーラムとしての問題意識をまとめた動画(ホワイトボードアニメーション形式)で制作・公開し、広く本フォーラムを通じた課題解決への参加を促す。
- ・その他本フォーラムの年間の広報活動と広報物(YouTube、Facebookに掲載するコンテンツ類含む)の企画、制作、メンテナンス。
- ・本フォーラム設立20周年(2024年)に向けたアイデアだし

2) メンバー

日本労働組合総連合会神奈川県連合会(連合神奈川)

日本労働組合総連合会(連合)

(特活)アジア・コミュニティ・センター21

(特活)AAR Japan [難民を助ける会]

(一社)SDGs市民社会ネットワーク(SDGsジャパン)

(特活)エファジャパン

(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会

(特活)国際協力NGOセンター

3) 実績

- ・前期に企画策定を行った、新型コロナウイルス禍で最も影響を受けている人びとと平時から社会課題に直面している人びとに関わっている本フォーラムのアピールを目的としたホワイトボードアニメーション（「私たちの未来は、私たち一人ひとり次第 SDGs 実現に向けた NGO と労働組合の願い」（2021年12月、再生時間4分））制作を完了した。
 - ・ホワイトボードアニメーションを公式 YouTube チャンネルに掲載した。
 - ・広報戦略を策定し、ホワイトボードアニメーションのフォーラムメンバーの視聴促進、フォーラムメンバーから所属組織への視聴促進、フォーラムの Facebook ページでのタスクメンバーからの投稿を実施した。
 - ・タスク会合開催は、2回実施した
- 2021年12月10日、2022年8月17日

目標と実績、達成度

		2022 / 2/15	3/17	4/15	5/20	6/17	7/18/ 実績	達成 度
ホワイトボードアニメーション再生回数	1000回（28組織×30人+一般）	83	212	226	231	276	284	28.4%
公式チャンネル内全動画再生回数	5,000回	509	643	658	671	754	834	16.7%
公式 facebook フォロワー	100人	-	12	12	12	12	16	16.0%
フォーラム新規加盟	労組2組織、NGO2組織	0	0	0	0	0	0	0.0%

4) 成果・課題

<成果>

- ・ホワイトボードアニメーションの完成と、タスクメンバーを中心にフォーラムメンバーや所属組織に対し視聴促進を行い、長引く新型コロナウイルス感染症流行下での社会課題や解決への取り組み、フォーラムの認知向上に貢献した。
- ・戦略の策定により、目的とターゲット、施策内容の選択と集中を行った。
- ・ホワイトボードアニメーション制作と Facebook の発信活動を通して、タスクメンバーの所属組織の活動への理解が促進された。

<課題>

- ・指標を達成することができず、動画の視聴は限定的となった。施策進捗の報告など各メンバーの取り組みを数値化し可視化して、統一認識をもって取り組める仕組みの構築まで至らなかった。
- ・タスクメンバーやフォーラムメンバーの周縁にいるステークホルダーに対し、一歩進んだ発信や具体的な取り組みができなかった

Ⅲ 課題別グループ活動

1. 児童労働グループ【ゴール8】

1) 基本目標

世界には1億6000万人、世界の子どもの10人に一人が児童労働をしている現状がある（ILO、2021）。SDGsには、「2025年までにすべての形態の児童労働を終わらせる」ことが目標8のターゲット7に掲げられた。当グループは、労働組合とNGOの連携を通じ、児童労働ネットワーク（CL-Net）とも協力しながら、児童労働問題が解決に向かうよう推進活動を行うことを基本目標とする。

※児童労働ネットワーク（CL-Net）とは

児童労働に問題意識をもち、日本からこの問題の解決に貢献することを目指すNGO、労働組合などが加盟するネットワーク。

2) 当年度（2021/2022年）の目標

今年6月に発表された児童労働最新推計では、過去20年間減少傾向だった児童労働が初めて増加に転じ、新型コロナウイルスの影響でさらに多くの子どもが児童労働を強いられる危険性があることが指摘された。この状況をふまえ、労働組合員や一般市民が意識や行動を変える契機となるよう、児童労働撤廃活動の普及と啓発に貢献する。

3) 参加組織

＜労働組合：6組織＞

- ・IUF-JCC
- ・自動車総連
- ・JAM
- ・情報労連
- ・日教組
- ・UAゼンセン

＜NGO：4組織＞

- ・アムネスティ・インターナショナル日本
- ・ACE＜事務局＞
- ・国際労働財団
- ・シャンティ国際ボランティア会

4) 活動実績

(1) イベント開催、出展

① 勉強会「日本の児童労働の現状と課題」

日時：2022/06/08(水) 14:00-15:00

場所：オンライン

参加人数：17名（事務局、グループメンバー含む）

活動内容/実績：フォーラムの勉強会企画の枠組みを活用し、勉強会を実施。講演と小グループに分かれての意見交換を行った。講演に先立って行った児童労働グループの活動紹介では昨年度作成した動画を配信し、これまでのグループ内での議論やコンテンツを生かした発信ができた。参加者からは「実態を知ることができてよかった。活動にどうつなげるか考えていきたい」などの声があった。

② 情報発信と啓発活動

労働組合員が児童労働の現状と解決のためにできることを知る機会を増やすため、啓発チラシの配布やチラシと連動した動画の配信等を検討していたが、実際にはグループメンバーの各組織へのチラシ配布に留まり、その先の展開につなげることが出来なかった。メーデー中央大会の出展についても、諸々の状況を鑑み見送った。

③ CL-Net と共同事業

「ストップ！児童労働キャンペーン2021」の広報協力として、6月12日に開催された児童労働ネットワーク主催イベント告知や参加、組織内でのキャンペーンへの参加呼びかけを行った。

【キャンペーンの実績】

＜レッドカードアクション＞

- ・投稿枚数（Facebook、Instagram、Twitter 総計）：180枚
- *過去実績：1,530枚（2019年）、120枚（2020年）、326枚（2021年）
- ・参加人数（Facebook、Instagram、Twitter 総計）：1,402人
- *過去実績：7,650人（2019年）、1,696人（2021年）

(2) グループ会議、勉強会等

＜グループ会議＞

2021年9月9日、12月15日、2022年4月27日、6月8日、8月18日

5) 成果と課題

<成果>

・フォーラム全体の勉強会企画の機会を生かし、かねてから実施を検討していた勉強会を児童労働グループ以外にも開いた形で開催することができた。グループメンバーからは「開催規模に関わらず、こういった機会を増やしていきたい」との声もあり、次年度にもつながる機会となった。

<課題>

・啓発活動をグループ活動の柱の一つと位置付けていたが、昨年に引き続きオンライン中心の活動となる中で、手ごたえを感じる情報発信や働きかけを実現することができなかった。今後の状況を注視しながら、より効果的な活動内容を検討・試行していく。

・児童労働に関する SDGs の達成目標年（2025 年）が迫る中、子どもたちの現状をどのように伝え、実感を持って活動に参加してもらえるか、また、情報発信先をグループメンバー組織に留まらず、フォーラム参加組織や連合加盟組織等に広げていけるか、関係者と相談しながら検討を進めていきたい。

2. HIV/エイズ等感染症グループ【ゴール 3,8,10】

1) 基本目標

SDG の目標 3「あらゆる年齢の全ての人々の健康な生活を保障し、福祉を促進する」のターゲット 3.3 として、「2030 年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった感染症を終息させるとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する」と挙げられている。また、全ての人々が経済的困難に直面することなく必要とする保健医療サービスを受けられることをめざすターゲット 3.8「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成」も世界の目標として重視されている。これを踏まえ、SDGs が目指す「誰一人取り残さない」社会を実現するために、当グループは SDGs 目標 3 の HIV/エイズを中心に感染症に関する課題に対して取り組む。

NGO と労働組合が協力し、労働組合員や一般市民に対して、国内外の HIV/エイズ等感染症の現状と正しい知識を伝え、予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、国際的な取り組みを行う。労働組合・NGO 双方のネットワークを通じて、その活動への支援参画を促す。

2) 当年度（2021/2022 年）の目標

- ・新型コロナウイルス感染症を含む HIV/エイズやその他感染症に関する課題について、一般市民・労働者への啓発に貢献する。
- ・グループ参加団体が、新型コロナ感染症や HIV/エイズ、その他感染症、保健の課題に取り組む関係組織との協力関係を強化する。
- ・グループ参加団体がより一層新型コロナや HIV/エイズ等をはじめとする保健の問題に関する知識を深めるため、グループ参加団体個々の持つ知見や情報を共有し、それぞれの活動に生かし、また広く啓発活動を行えるよう研鑽に努める。

3) 参加組織

<労働組合：2 組織>

- ・インダストリアル・JAF
- ・国際食品労連日本加盟労組連絡協議会

<NGO：3 組織>

- ・シェア＝国際保健協力市民の会
- ・グローバル連帯税フォーラム
- ・アフリカ日本協議会<事務局>

4) 活動実績

(1) イベント開催、出展：主催

① 座談会（UA ゼンセン 外国人相談窓口）（主催）

日時：2022年1月21日（金）PM3時～4時30分

場所：オンライン

参加人数：UA ゼンセン（エスター・スィバンモイ、ブティトウイ、小林孝徳） NGO 労組協働フォーラム：鷺崎、遠野、西山、稲場、廣内

活動内容／実績：労働組合で外国人労働者の相談窓口をもうけている UA ゼンセンの相談担当者との座談会を行った。具体的な相談内容や相談窓口としての懸念事項を共有してもらい、現状について学ぶことができた。また NGO 側から、NGO で行っている支援等の活動についても共有し、情報交換を行うことができた。この座談会をもとに、5月25日のウェビナーを開催した。

② オンラインセミナー「コロナ禍における在日外国人の健康問題を考える＝NGOと労働組合が協力してできること＝」開催（主催）

日時：2022年5月25日（水）PM3時～4時30分

場所：オンライン

参加人数：80名（申し込みは90名を超えたため締め切り）

活動内容／実績；日本では、外国人労働者をめぐる労働問題、人権問題が頻繁に生じている。特に技能実習制度では、実習生は過酷な労働環境で働いていたり、職を失うなど様々な困難に直面している。外国人労働者関連で実績のあるNGOと労働組合として外国人相談窓口を設けている UA ゼンセンの担当者および研究者が、それぞれの立場で具体的な取り組み事例を話し、また互いに協力していけることは何かについて考えた。終了後も資料や記録を共有してほしいという希望が複数寄せられ、関心の高さを示していた。

(2) イベント開催、出展：共催

① ホットジェネレーション（共催）

日時：2022年1月10日（月・祝日）13:30～18:00

場所：五反田文化センター音楽ホール

参加人数：360名

活動内容／実績：当グループでは、感染症対策をしたうえで、エイズ啓発のメッセージの入ったティッシュや、カンボジアの保健状況と新型コロナの影響と医療格差に関してまとめたチラシを観客に配布した。さらに会場内においてアナウンスを配布し、会場にブースも出展した。

② 東ティモールフェスタ（共催）

・東ティモールフェスタ プレイイベント：シェアオンライン企画「海と自然とサステナブルと！離島アタウロをもっとよく知る90分！」

日時：2022年5月19日（木）19:00～20:30

場所：オンライン（Zoom）

参加人数：25名

活動内容／実績：シェア＝国際保健協力市民の会が活動している東ティモールの離島アタウロ島での保健活動や人々の暮らし、文化など、現地の日本駐在員が映像を見せながら保健について情報提供した。

・東ティモールフェスタ 2022

日時：5月21日（土）10:00～18:00

場所：上智大学 四谷キャンパス

活動内容／実績：知って、味わって、つながる”をコンセプトに、東ティモール独立20周年記念

シンポジウム、フェアトレードコーヒー飲み比べ、ワークショップ、写真展などで東ティモールの文化やグルメを紹介。東ティモール人留学生や、東ティモールにゆかりのあるミュージシャンの音楽ライブも開催した。シェアのブースにて、東ティモールのプライマリヘルスケア事業の説明と共に、エイズ啓発メッセージ付きのティッシュ 110 個を配布した。感染症の情報チラシなどもブースに置き、必要に応じて説明をした。

5) 成果と課題

<成果>

労働組合と感染症グループとの外国人労働者の健康に関する座談会は 3 年目となり、外国人の相談窓口を設置している UA ゼンセンに実践的な話を聞くことができた。特に負の影響を受けやすい外国人労働者を取り巻く課題について、具体的な相談内容や寄せられる相談の件数等についても、1 つの事例として知ることができた。そのうえで、この座談会の区切りとして、ウェビナーを開催し、労働組合と NGO で連携して取り組む可能性についてディスカッションを行ったほか、当グループの活動の紹介として動画を公開した。その他イベントへの共催を通して、新型コロナウイルスを含む感染症への対応の重要性についてチラシ等で情報提供を行った。また、公正な医療へのアクセスについての勉強会を開催した。

<課題>

メーデーは今年度も参加を見送った。外国人労働者の健康問題に関する知見の蓄積を今後、どのような形で活かしていくことができるか検討する必要がある。また、これまで「感染症」グループとして活動してきたが、より広く「保健」あるいは「健康」に関する課題を対象にするかも検討していく必要がある。労働組合と NGO との理解促進と情報交換を進め、何に対して、どのように共に考える機会を持ち、あるいは具体的な協力やそのための環境整備につなげていくことができるかは今後の課題である。

3. 母子保健グループ【ゴール 3,5】

1) 基本目標

(1) 労働組合と NGO が協力し、国際的な母子保健の課題について継続的かつ分かりやすい啓発活動を行い、組合員や一般市民に課題意識を高めてもらう（啓発拡大）

(2) SDGs のゴール 3 と 5：あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進する/ジェンダー平等を実現するための実現可能なアクションを促し、参画を拡大化させる（行動促進）

2) 当年度（2021/2022 年）の目標

収束が見えない新型コロナウイルス下の制限された活動の中、どのようにして基本目標の実現に向かうのか。新たな取り組みを労働組合、NGO とで力を合わせていく

3) 参加組織

<労働組合：4 組織>

- ・全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会（電機連合）
- ・日本基幹産業労働組合連合会（基幹労連）
- ・国公関連労働組合連合会（国公連合）
- ・全日本自治団体労働組合（自治労）

<NGO：1 組織>

- ・公益財団法人ジョイセフ<事務局>

4) 活動実績

(1) イベント開催、出展

なし

(2) 加盟組合集会での啓発活動

① 国公連合 第21回定期大会

日時：2021年10月12日

場所：連合会館（オンライン併用）

参加人数：100人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

② 国公連合 第20回中央委員会

日時：2022年1月28日

場所：連合会館（オンライン併用）

参加人数：100人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

③ 自治労 保育集会

日時：2022年7月30、31日

場所：東京・自治労会館、連合会館（オンライン併用）

参加人数：1100人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

④ 自治労 臨時・非常勤等職員評議会全国会議

日時：2022年8月21日

場所：東京・自治労会館（オンライン併用）

参加人数：60人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

⑤ 自治労 女性部総会

日時：2022年8月20、21日

場所：山形・天童市市民プラザ（オンライン併用）

参加人数：200人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

イベント開催とは別に、2022年5月に電機連合村田製作所労働組合からの要望を受けて、個別の啓発活動（資料配付とドリップコーヒー試飲（各10名分）の提供）を行った。

(3) グループ会議、勉強会等

<グループ会議>

- ・2022年1月19日、4月13日、5月11日

<勉強会>

（グループ内）

- ・12月13日：OKIグループ連合への母子保健プレゼンテーション（対応者：ジョイセフ佐藤幸子）
- ・4月13日：ジョイセフおよび加盟組合の活動紹介（講師：各メンバーより）（フォーラムメンバー対象）
- ・7月26日：タリバン政権下のアフガニスタンの母子への支援活動について（講師：ジョイセフ甲斐和歌子）

5) 成果と課題

<成果>

- ・新型コロナウイルス感染の長引く影響により、対面での集会が減りオンライン会議の機会が増

えたことを受けて、会場での資料と試飲用コーヒードリップパックの配付、またオンライン参加者への事前配付、個別の啓発活動の実施など、多面的なアプローチによりのべ 1570 人の組合員に母子保健の啓発活動を実施することができた。

・フォーラムメンバーを対象とした勉強会の開催を通じて、母子保健の課題および支援の取り組みの重要性について、情報発信をすることができた。

<課題>

・母子保健に労働組合が取り組む意義について、母子保健グループ加盟組合以外の組合メンバーにまだ十分に周知できていない現状がある。今後は、フォーラムメンバーを対象とした勉強会などにおいて、ジェンダーの要素なども取り入れ、より効果的な啓発活動を展開していきたい。

以上